

ごめんやす

同窓会訪問記・山城三十六回

薄暮に浮かぶ二条城を眺め、笑顔で再会を喜びあう受付前は賑やかです。

鈴木元校長先生がハーモニカグループで、老人ホームなどを訪問し、演奏を披露しているという近況報告で挨拶とされ、森先生が山城高校に関わって五十年のいきさつと、百年事業の紹介で会が始まりました。

宇野先生は当時の懐かしい文集を持参され、この学年から修学旅行がスキー学習となった印象深い思いで話をされました。発起人を代表して坂山氏が挨拶と乾杯で、会食、歓談となりました。

バイキング形式の会のため、テーブルにつくより、料理の前での会話に花が咲いています。

宇野先生がグラスを持参して生徒の輪に入られると会話は一段と弾んでいます。当時の数学の授業の固いイメージとは全く違った親しい雰囲気で、元生徒達が戸惑うほどでした。まだまだ話はつきないところですが、進行方から閉会を告げられ、しどろどろし声が小さくなり、先生方に記念品が贈呈され、三十六期生の健勝を込めて「一本締め」で閉会となりました。

今回の企画については同窓会サポートシステム（幹事代行業）を利用していました。